

学生の皆さんと話をして感じますのは、自分を演出する力が少ない学生が多いのかなあ、ということですね。例えば、履歴書やエントリーシートなどは内容的に見て他の学生とあまり変わらないことが多いのですが、目に付くキーワードを散りばめる事により、他人とは違うインパクトを与え自分を面接官にアピールすることができるとのことです。

相談では一般企業全般を受け持っていますが、同性ということと話しやすいのか、女子学生からもよく相談を受けます。就職氷河期といわれる中、特に女子学生の就職活動は想像以上に大変です。そうした状況において、割合早めの内定をいたしている学生の共通点をあげてみますと、「自分を理解してもらったための営業努力をし、競争意識などの感性を持っている学生」ということになるでしょうか。



白山キャンパス/井岸 順子 相談員

## 「自分を理解してもらおう工夫を」

面接では答える内容はもとより、答え方のほうも大変重要視されます。話し方や顔つき、ユーモアなどをアピールできればうまく自分らしさを表現できるのではないのでしょうか。面接をしてくださっている企業の方々と同じ壇上に立ち、同じスタートラインに立って、正々堂々と自分を見て、理解してもらえよう工夫してください。緊張するとは思いますが臆することはありません。本当の自分をより良くわかってもらおうための演出をするのだ、というくらいの余裕をもって臨んでください。

最初から仕事をバリバリこなす人はいません。失敗もあるでしょう。でも失敗をした時にどうするか。人間としてコミュニケーションをうまくとれる人間か、そうでないか。また、一緒に仕事をしたい人間かどうか、その辺を見て採用担当者の方々は判断するのだというのを覚えておいてください。

また、内定を幾つかいただいた後、急に悩みだす方がいますが、そうならないためには、日頃から、この企業は自分が本に入りたい会社なのかどうなのかを見極める必要があります。

大学の4年間は社会に出る前の、色々な事に挑戦できる最後の時間です。何にでも好奇心を持ち、チャレンジする習慣をつけ、ボランティアやインターンシップ、アルバイトなどをする事により、様々な社会を見て悔いを残さないようにしてください。

## 就職特集 第2弾

# 就職部を 活用しよう

## —就職活動の疑問・不安を解消しよう—

3年生にとって、いよいよ就職活動開始の時期になりました。いざ、就職活動を始めなければと感じたとき、企業研究がどうしても上手くいかない、自己PRがまとまらない、面接がどうしても不安だという学生は多いと思います。今回の特集では、そんないろいろな悩みをかかえた皆さんの疑問や相談に答えてくれる、各キャンパスの就職相談員の方々にお話を聞いてみました。

また、就職部を活用して内定を得た2名からアドバイスをいただきました。



白山キャンパス/渡邊 英雄 相談員

## 「公務員は早めの勉強開始がカギ」

公務員希望者を中心に相談を受けています。公務員といっても国家公務員には一般行政官から特別職の国会、裁判所の事務官、自衛官などがあり、地方公務員にも県庁・市役所・町役場の職員、消防官、警察官等多くの種類があります。その中から自分のやりたい仕事を選ぶことから始めるのですが、多くの学生は公務員という身近な市役所の職員を連想しているようです。

学生の中には、「今は不況だし、倒産もないから公務員にでもなるつか」と気軽に考えている人がいるようですが、そう考えている人がいたら今日その考えは捨ててください。近年の公務員試験の倍率・難易度は

はとて高くなっているのが現状ですから、4年生になってから試験勉強を始めたのでは、とても間に合いません。教養問題では高校レベルの8科目を総合的に復習し、勉強する必要があります。大学2年生になったら過去の問題集なども過去3年間分は解かしてみてください。学部によっては専門試験の全科目を独学で勉強する必要があります。公務員試験は一般企業と同様に人物重視であることは確かですが、応募人数が多いこともあり、国・地方を問わずまずはペーパー試験重視の傾向がまだまだ強くあります。

地方公務員の面接では、地元を希望する理由に重きを置いているところが多いので、その土地周辺の歴史や文化、産業、特産品などの魅力を強調するといいたいでしょう。地元出身ではない場合は図書館等でよく調べておくべきでしょう。

公務員を第一希望とする人は一般企業を併願するより、公社や公団を併願することを奨めます。公務員試験は企業の採用試験が終わった後に行なわれることが多いので、仮に一般企業からいただいた内定を辞退するときの問題が発生する場合もあるからです。

とにかく、公務員希望の学生は筆記試験の勉強を早めに行ってください。



白山キャンパス/中村 博幸 相談員

## 「適性を知り、自分の能力を発揮する」

以前 証券会社で働いていたこともあり、金融関係の相談が得意分野です。特に最近、金融不安が叫ばれていますが、金融関係への就職を希望する学生からは、それほど不安で動揺している様子はうかがえません。金融関係といえば、銀行・証券・保険など様々ありますが、相談に来る学生は金融関係ならどこでも良いという考えではなく、銀行なり、証券なりしっかり目標を絞って行動している学生の方が多いようです。

採用状況を見ますと、最近では多くの企業が人物重視の採用方針をとっていますが、大手企業ではまだ若干古い体質が残っているようにも見受けられます。

まず、東洋大学の学生には、古い体質をはねのける力を是非つけて欲しいと思います。また、大企業では職種別採用といった採用方法をとっている会社も増えてきています。とにかく自己分析をし、その上で自分の適性を生かせる職業は何かを考えるべきです。

学生の皆さんの中には自己分析や企業研究を少し軽く考えている方もいるようですが、今後社会に出て働いていく上で自己分析は極めて重要です。終身雇用の崩壊により「能力」を十分に発揮できる人はより大きな仕事と報酬が期待され、そうでない人はリストラの対象になるというのが今の雇用環境です。そして、この「能力」のカギとなるものが適性なのです。自分の適性を知ることは非常に大切です。

私は証券会社に勤務していた関係上、上場企業の企業情報や経済動向には常に目を配ってきました。その情報が就職を目前にした学生の皆さんの役に立てばと思っています。企業研究が不十分な状態で受験しますと、自分の身の確固たる意思を相手にはつきり伝えることができず、その状態では良い結果は得られません。また、仮に入社しても離職せざるを得ないことにもなります。

今後の日本経済は更に企業間の優劣がはつきりし、淘汰される企業も確実に増えてきます。企業研究をしていく上で、分らないことがあつたら受験する前にいつでも相談に来てください。





川越キャンパス/伊藤 英樹 相談員

## 「人間的魅力を相手にアピール」

過ぎて、各企業の実像をしっかりと把握できていないのでは、と感じます。確かに、インターネットの就職サイトを利用して資料請求や説明会の申し込みなどを行いますが、もっと積極的に会社に足を運び、OB・OG訪問や人事担当者の話を聞くべきだと思います。就職後3年間で離職をしてしまう人が3割を超えているというのは、就職活動中に企業の実像をしっかりと把握しきれていないで入社してしまうことが要因のひとつに挙げられると思います。工学というのは実学ですから、技術系の就職を希望する学生がほとんどです。大学時代に習ったことが会社に入っても活かせるというのは素晴らしいことだと思います。採用試験ではもちろん技術者としての素養や専門性が問われるのですが、最後はその人の持つ人間的魅力を相手にどれくらいアピールできるかです。自分のやってきたこと、できること、やりたいことをしっかりと持ち、その上で企業研究をしていけば自然と自分にあった会社を見つけられると思います。



板倉キャンパス/大畑 秀明 相談員

## 「就職資料室できっかけ作り」

の都市計画や地方行政なども学んでいるので、社会の環境問題や地域貢献に興味を持ち、1・2年生の早い時期から公務員に絞って、大学で実施している公務員の対策講座を利用して勉強している学生も多くなっています。理系の生命科学部の学生は高校時代から科学等に興味があって入学してくるため、企業研究をするにしても薬品・食品などに関連する会社に就職したいと明確な意思をもって企業研究している学生が多いようです。しかし、自分が大学で学んできた範囲で研究職という職種の採用は窓口が非常に狭く、大学院に進学してから就職しようと考えている学生も3〜4割程います。大学院への進学と企業への就職に迷っている学生が相談に来ますが、「もっと専門知識を深めて研究職で就職したいのなら、大学院へ行くべきじゃないですか」と話しています。板倉キャンパスでは卒業生を送り出してまだ2年ですので、人数的にはOBやOGがまだ少ないのですが、卒業生の進路先や4年生の内定状況などを、授業で把握しやすいというメリットがあります。実際に、就職先が内定している4年生に3年生の相談を受けてもらったり、卒業した先輩に引き合わせたりもしているため、どんどん就職資料室できっかけを得てください。また、どんなことでも相談に乗りますので、気軽に来室してください。

以前、私は化学系の企業で採用担当者として勤務していました。どの学生を採用するかという立場から、この学生をどう採用してもらおうかと逆の立場になったばかりの時は、正直いつて戸惑いました。しかし、今では以前の経験を活かして、採用する視点から履歴書やエントリーシートの書き方、面接の対応など学生指導に力を注いでいます。就職資料室に来る学生からは「企業への手紙の書き方、電話の仕方、面接で試験官は何を見ているか」など次から次へと質問が飛んできますが、履歴書の書き方や面接での話し方、特に敬語の使い方が難しいようです。最近、多くの学生を見ていると、あまりにもパソコンでの就職活動に偏り

### 活動開始時期

3年生になって就職を意識するようになったのですが、最初は何かから手をつけたい良いのか分からない状態でした。ただ先輩から就職活動の難しさを聞き、「就職する」ということは大変な覚悟が必要だということ実感がありました。

### なぜ金融業界?

子供の頃に映画「ウォール街」などを観て、漠然とこんな仕事をしてみたいという思いがありました。また、今勉強している法律と金融業界の仕事は密接に関係しており、この2つは今後も生活していく上で必ず役立つだろうと考えました。就職部に相談したところ、「それなら証券会社や銀行がやっている投資銀行業務(インベストメント・バンキング)がいい」とアドバイスを受け、投資銀行業務のできる会社に就職したいと考えるところになりました。

### 自己分析

ある程度やりたいことが見えてきたのと、普段から自分の長所、短所や志望動機は考えていたので、分析にあまり時間はかかりませんでした。ただ、いざエントリーシートや履歴書を記入するとなると非常に時間を費やしました。

### 企業研究

内定者懇談会、OB懇談会など、就職部の行う学内行事にはほぼ全て参加しました。普段聞けない先輩たちの苦労話や

## アドバイス!



法学部法律学科4年 近藤 剛潔 君  
新光証券株式会社(内定)

#### ①書類選考

履歴書やエントリーシートは多くをアピールしようとしてまとまりのない文章になりがちです。言いたい事を書くだけでなく、その文章を読んだ相手はどう捉えるかも意識して書くことが良いと思います。

#### ②筆記

SPI・一般常識・性格検査など様々な筆記試験がありますが、性格検査以外は勉強するしかありません。私も三冊ほど問題集を購入して勉強しました。結構厄介なのが性格検査です。筆記ができて性格検査で不合格になる人もいましたし、面接時に性格検査の結果について突っ込まれたりしたので、企業の求める人材像を把握するのも大切なことだと思います。

#### ③面接

私は面接に対して苦手意識はなかったのですが、担当者がこちらの話に乗ってきくれない場合、分析されているような気がして圧迫感を覚えました。聞かれる内容はどの会社も似たような事柄が多いので、事前に面接の会話をイメージしておくべきでしょう。

グループ面接の場合は周りの意見が気になって自分を見失ってしまう場合があるので、人の話を聞いた上で自分の言葉でしっかりと話せばよいと思います。

#### ④最終面接

筆記試験、あるいは面接のどちらか一方だけ得意という学生がいると思いますが、最終面接の評価は総合的に判断されるので、倍率の高い企業は両方ともよくなければ難しいでしょう。最終面接はアピールすることよりも質問に対して冷静に、今までの面接で話してきたポイントを簡潔に要約して話すことが大切だと思います。

### 最後に

悔いを残さないためにも、最善を尽くすことが大切だと思います。すでに就職活動が始まっている3年生も、近い将来就職活動をする1・2年生も、自分がどのような人生を歩みたいのか、どのような世界で生きていきたいかをしっかりと考えてほしいと思います。また何をしたいのかわからない学生は、答が出るまでとことん考えてみてください。今までも少しも興味を持つたもの、惹かれたものが必ずあるはずです。問題を先送りしてはみてもよい答は得られず、せつかくのチャンスは無駄にしてしまうことになります。また、無理だと思って最初からあきらめず、諦めないことです。

様々な選択肢がある中、私は就職だけが正しい選択だとは思いません。無限の可能性がある今、どんな選択をするにしろそれに向かって本気で挑んでもらいたいと思います。





## 公務員への憧れ

私が内定した社会保険庁は、年金保険や医療保険の給付を行い、国民が豊かな生活を送れるようにする国の機関です。医療保険制度が新聞などで話題にのぼっていますが、これから迎える高齢者社会でもとても難しい問題だと思います。それだけにやりがいがある仕事だと感じています。

公務員を意識し始めたのは中学生の時です。当時、自転車を盗まれた事がありました。その時に親身になって対応してくれた警察官を見て、子供心に「世の中のためになれる仕事っていいなあ」と思ったのです。ですから大学の学部を選ぶときは公務員を意識して法学部を選びました。

## 試験対策開始

私の場合、入学して気が抜けていたのかもしれませんが、1・2年生の時にはまったく公務員対策の勉強はしていませんでした。試験勉強を始めたのは3年の7月からですが、本腰を入れたのは10月になってからです。7月のころはまだ気持ちにも余裕があつて「当分先の話だ」というような気持ちがあつたのだと思います。ただ10月になると周りの公務員志望の人達の目が真剣になってきたんです。それからとにかく勉強漬けの毎日でした。その中で大学の就職部で実施している公務員

講座も利用しました。僕は自分の専門外である社会学の科目も受講して、基礎固めをしました。

## 揺らぐ思いも友達を支えに

4年の4月くらいになると民間企業を受けている人達が内定を取ったという話が耳に入ってくるようになりまし。これにはさすがに焦りましたね。公務員の試験は6月からのので、もちろん自分はまだどこも受けていない。願書を提出しているだけでしたから。ただ、友人に公務員志望が比較的多かったため、その点は良かったのかもしれませんが、彼らがいなければ公務員一本で頑張ることはできなかつたでしょうし、「がんばっているのは自分だけじゃない」と心の支えになっていました。

## 範囲が広い公務員試験

とにかく範囲が広い公務員試験。勉強方法や始める時期など、自分にあつたものを見つけてみましょう。

試験対策を始めたころから、一般教



## アドバイス!

法学部法律学科4年  
**村上 広和**君  
社会保険庁(内定)

養と専門科目を同時に勉強していきま。一番驚いたのは試験範囲がとにかくとても広いという事です。ですからすべての事に手をつけようという事が重要です。なにも満点を取らなくても試験には合格します。まず自分の得意科目をつくること。また、どうしても自分に合わないと感じた科目には何も手をつけなない思い切りのよさも必要だと思。公務員の勉強は新しい事を覚えようと思えばいくらでも

できます。が、それをやっていたのではきりありません。最終的に、私は勉強したことで得た知識の洩れをなくすことに重点をおきました。

公務員の試験勉強を始める時期ですが、もちろん早ければ早いに越したことはありません。ただ、その人にあつた方法があると思います。コツコツ根気よく勉強できる人は早くから対策をしていくべきです。ただ、「こんなに早くから始めているのだから自分は大丈夫だ」というような慢心から、中だるみが出てしまう人もいるかと思。そういう人は短期間に集中して自分を追い込んでいくのも1つの方法だと思。思いますよ。

## 出遅れた官庁訪問

実際、筆記で合格すると官庁訪問をして、希望する省庁の面接を受けて内定を得るのですが、私は筆記に合格するとは思っていなかったため、合格してから省庁の研究をすることになってしまいました。省庁の合同説明会で各省庁の話聞いて、選んだのが社会保険庁ということ。他の合格者に聞いてみると、合格が発表される前から、官庁訪問をやっていた強者もいました。

## 国民のためにサービスができる職場

最初の憧れでもあつた警察官は高校時代に痛めた腰痛などの問題で断念しましたが、僕が就職する社会保険庁も、国民を相手にするというスケールの大きな職場です。国民の生活の役に立つよう頑張っていきたいと思。思。ます。

